

J-5

2025 年日本国際博覧会跡地計画
-観光立国における国際医療ツーリズム拠点の提案-
Former Site Planning of JAPAN EXPO2025
-Proposal for an International Medical Tourism Center in a Tourism Nation-

○小林真子¹, 居駒知樹²

Taro Nichidai¹, *Mako Kobayashi¹, Jiro Nichidai²

COVID-19 downgraded to category 5 under the Infectious Disease Control Law, Japan is moving toward a revival of its tourism industry. With Japan Expo scheduled to be held in 2025, Japan is now on the verge of becoming a tourism-based nation and rebuilding its economy. On the other hand, little information is publicly available on the former site of the Expo, and the future of the site remains uncertain. In recent years, the number of visas issued for medical stay has increased rapidly, and demand for medical tourism, which combines medical care and tourism, is expanding, especially among wealthy Chinese. Focusing on medical tourism utilizing onsen therapy and hot spring cures, one of Japan's unique medical methods, I propose an international medical tourism base center that will serve as a catalyst for sustainable tourism and local revitalization by creating a flow of people to the hot spring resorts scattered throughout western Japan.

1. 社会背景

日本経済に大きな影響を与えた新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に引き落とされ、日本は観光産業の復活に向け動き出している。今年3月には、持続可能な形での「観光立国」を目指した観光立国推進基本計画が閣議決定され、2025年には日本国際博覧会（大阪万博）が開催されるなど、観光立国として日本経済を立て直す契機にさしかかっている。

2. 計画背景

2. 1. 会場跡地の既存計画と課題

大阪・関西の経済発展を牽引する役割として、万博会場の隣接地に「大阪IR」の計画が進められている。

大阪府市が新たな財源の確保や、観光や地域経済の振興、財政の改善への貢献を目指している一方で、カジノ施設を有することによるギャンブル依存症や治安悪化などの社会問題の増加や、経済的効果の限定性、周辺の地域経済への影響、環境への影響などさまざまな問題が懸念されている^[1]。

また、万博会場の跡地計画についての情報はほとんど公開されておらず、IR計画を含め、先行きが不透明になっているという現状にある。

2. 2. 医療ツーリズムの需要拡大

日本は優れた医療技術や医療機器を保有し、世界から高く評価されている。医療分野は大阪の成長産業のひとつでもあり、大阪・関西の経済を支える大きな要

素になり得る。

近年は治療や検診などを受けることを目的として訪日する外国人患者と、その同伴者のための医療滞在ビザの発給件数が急増しており^[2]、中国の富裕層を中心に医療と観光を結びつけた医療ツーリズムの需要も拡大しつつある（Figure 1）。一方、アジア諸国では既に医療ツーリズムの市場拡大が進んでおり、他国との差別化が求められる。

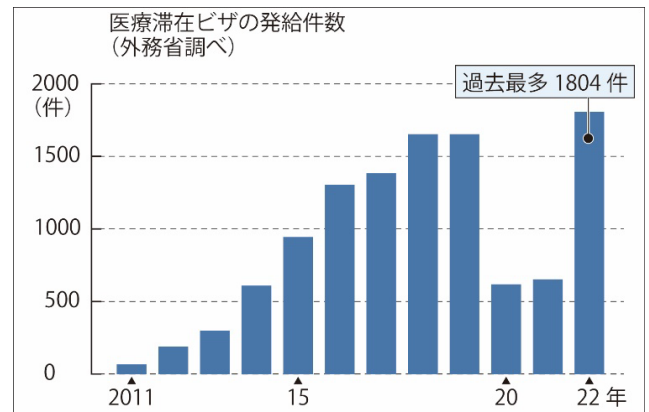


Figure 1. Number of Visa for Medical Stay Issued^[2]

3. 基本計画

3. 1. 提案

今回の万博テーマにある「いのち」をテーマとした跡地計画を提案する。日本の医療文化のひとつに挙げられる温泉療法や湯治を活かした医療ツーリズムに着目し、国内外からの医療渡航者の受け皿となり、西日本各地に点在する温泉地へ人の流れを生むことで、持

1 : 日大理工・院(前)・海建、Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.

2 : 日大理工・教員・海建、Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.

続可能な観光と地方活性化の起爆剤となる国際医療ツーリズム拠点施設を提案する。

従来の医療渡航者に向けた医療ツーリズムに加え、国内患者や高齢者のためのヘルスツーリズムも視野に入れ、健康寿命の向上や地方衰退などの社会問題の軽減にも繋げる。

3. 2. 対象敷地

大阪市夢洲地区を選定する (Figure 2)。



Figure 2. Site-Yumeshima

3. 3. 機能及び用途

下記の3つの機能から施設用途を決定する。

- (1) 温泉と文化をサテライトする医療ツーリズム拠点
湯治及び温泉効果の情報発信施設、宿泊施設など
- (2) 日本の最先端医療技術の発信拠点
研究施設、診療施設など
- (3) 医療分野を目的とした国際会議場
会議場、展示施設など

3. 4. 計画敷地及び規模計画

本提案は万博のメイン会場となる (Figure 3) の範囲を計画敷地とし^[3]、前述の3つのエリアを計画する。

各施設の規模については、先進事例を参考に必要面積を算定する。

Table 1. Example of Advanced Medical Center

施設名	敷地面積(m ²)	建築面積(m ²)	延床面積(m ²)
大阪国際がんセンター	12,833	6,821	68,268
大阪重粒子線センター	5,398	3,430	8,849
放射線医学総合研究所 新治療研究棟	126,047	2,582	7,350

Table 2. Example of International Conference Hall

施設名	展示場面積(m ²)	収容人数(人)	会議室数(部屋)
大阪府立国際会議場	2,600	6,112	29
インテックス大阪	70,000	1,072	28
国立京都国際会館	6,500	8,642	14
神戸国際会議場 神戸国際展示場	13,600	21,895	49

4. 建築計画

4. 1. 動線計画

現在夢洲では、夢舞大橋と夢咲トンネルに加え、新たな鉄道駅の建設と、船舶等を用いた水上交通を促進させる計画が進められている^[4] (Figure 3)。

陸上からの動線に限られる人工島において、水上交通が大きな役割を担う一方、中型船棧橋の設置は万博期間のみの計画となっており、閉会後は水上交通の利用が衰退すると予測できる。これらの背景を踏まえ、大規模な土木工事を必要としない水上機を用いた計画を行う。敷地へのアクセスに加え、医療ツーリズムの拠点施設から各温泉地への移動手段としても利用し、海陸の双方からのアクセスが可能である敷地の特性を活かし、水上交通と陸上交通のモーダルシフト連携を目指した交通計画を行う。



Figure 3. Circulation Planning

4. 2. マスタープラン

会場のリングを活かした建築提案を行う (Figure 9)。メインエントランスを海側に設けることで海に開いた空間を演出し、水辺空間に賑わいを創出する。

5. 参考文献

- [1] 大阪府公式ホームページ, <https://www.pref.osaka.lg.jp/irs-kikaku/gaiyou/>, 2023-4.
- [2] NetIB-News, 日本でも拡大する「医療ツーリズム」の現状, <https://www.data-max.co.jp/article/34958>, 2023-4.
- [3] 2025年日本国際博覧会基本計画
- [4] 朝日新聞 GLOBE+, 大阪万博前に「水都」の姿を取り戻せ 大阪一京都の舟運復活へ 急ピッチで工事進む, <https://globe.asahi.com/article/14879095>, 2023-4.
- [6] 公益社団法人2025年日本博覧会協会公式ホームページ, <https://www.expo2025.or.jp/>, 2023-4.